

①大道寺

曹洞宗の寺で直指山大道寺という。十一面観音が本尊で観音大師霊場でもある。寺伝によると、寛保4年(1742)、大島郡の小松にあった奥ノ坊を移したのに始まる。延享元年(1744)大道寺と改められ現在の地に建立されたという。

②田中馨雲彫刻作品「清浄観音」

田中馨雲は明治22年(1889)東開作に生まれる。高村光雲の高弟として帝展を始め数々の作品展で優れた賞を獲得され、中央美術界ではもとより郷土にも多大な貢献をされた。名田島には100を超える作品がある。

③櫻井慎平の墓

櫻井慎平は名田島の大庄屋秋本家の出で、改姓し櫻井と名乗った。幕末各地に諸隊が編成されたとき、自ら一隊を組織し、集義隊と称した。後に鋭武隊と改称し戊辰の役に参加した。維新後官吏となり、後に金沢裁判所長となり、金沢で没した。

④六神社

島の内に鎮座の神社で、田心姫命、多岐津姫命、市杵島姫命、保食神、仲哀天皇、神功皇后の六座を祭っていることから六神社といわれている。島を開墾したとき、この社を建て鎮守した。今の社殿は幕末に建立。

⑤手水川

島の内に手水川という今もって濁りのない涸れない清水の流れ出るところがある。昔、神功皇后が三韓征伐に行かれる時、ここで霊泉をうつつ島明神に戦勝を祈願されたといわれ、面影川ともいう。

⑥森重雪島先生の碑

名田島における唯一の画伯で、雪島と名乗り南画をもって近郷に聞こえていた。明治維新の戦役に従い、その後郷土に帰り画筆に親しみ多くの子弟を教えた。島中山墓地には、門人達によって建立された「雪島森重先生之碑」がある。

⑦皇后岩

島の南の田の中に皇后岩という巨石の群が林に囲まれている。この場所は以前、海であった。言い伝えによると、昔、神功皇后が三韓に軍を進められたとき、ここに御船をつながれて休憩されたので、その名が残ったという。

⑧六神社御旅所

西開作の間屋口はその昔、藩や知行所の「米の積出場」であった。島の六神社の御旅所はこの地にあり、春の大祭には神輿御幸がある。同地には地藏像、住吉大明神祠堂、庚申祠堂がある。

⑨頌徳碑

藩政時代小郡宰判の大庄屋を代々勤めた秋本家は大いに栄えた家で、居を島におき名田島の発展に功があった。島六神社の御旅所はこの地にあり、春の大祭には神輿御幸がある。同地には地藏像、住吉大明神祠堂、庚申祠堂がある。

⑩岩屋山地蔵院・⑫大岩

真言宗の寺で本尊は延命地藏菩薩である。宝歴6年(1756)に長円という僧が寺を再建し岩屋山古跡庵と称したという。その後地蔵院といわれるようになり、境内には巨岩が多く岩を利用し石仏や石塔が安置されている。

⑪靈光院の五重小塔

向山の靈光院の堂内にある。江戸時代の末、天保年間、防府天満宮境内に建立が計画されていたが百姓一揆のため中止された。この模型はこの堂に安置されよく旧態をあらわしている。(平成2年6月山口市有形文化財に指定)

⑫佐分利邸

佐分利氏は向山における旧家で代々医を業とし、この地方の重鎮であった。毛利藩の攘夷戦争に際し諸隊が結成された時、佐分利隊を組織し新開作の榎野川沿いの警備にあたった。屯所跡に長屋門等が残っている。



名田島自治会連合会

名田島の生い立ち

名田島という地名がいつごろから用いられたかは不明である。山口名勝旧蹟図誌には、慶安3年(1650)の御開作から公式の文書に載せられたと記されている。

しかし、応安4年(1371)ごろの今川貞世の『道ゆきぶり』に「なた島かた云々」と述べられており、これより以前に「なたじま」という名があったことは疑うべくもない。

もちろん、当時は小郡湾内の一小島で、管轄は湯上庄の陶村に属していた。しかるに、後年に至りこの小丘陵を中心に周囲の干潟が逐次干拓されて耕地となって来たので、正徳年中(1711～1715)に陶村から独立した。独立するまでの干拓は、長妻開作(1626)、慶三開作(1650)、元禄開作(1690年、西開作、東開作)。その後、1774年に安永開作(新開作)が、昭和5年に昭和開作が完成し、現在では、県下でも名だたる穀倉地帯「名田島」となっている。

表紙写真説明

「周防灘干拓遺跡名田島新開作南蛮樋」(国指定史跡)

安永3年(1774)に築造された「新開作南蛮樋」。平成8年3月28日に山陽小野田市の「高泊開作浜五挺唐樋」(1857年に五挺に増設された)と合わせて「周防灘干拓遺跡」として国の指定史跡となった。

両史跡とも、近世の周防灘における萩藩による干拓の実態を伝える貴重な遺跡で、切石積みによる精緻な構造は当時の土木技術の到達点がよく示されている。

主要な樋門は花崗岩の石材を積み上げた石垣でつくられ、ロク口による巻き上げ方式の仕切り板を設置した南蛮樋で、満潮と干潮の時、板を上下に動かして、潮を留め、また、排水していた。南蛮樋は、西側に三挺樋、東側に四挺樋がある。

⑬大樋門と第1排水機場(左奥)

手前は、名田島の約550畝の干拓から流出する用・排水を山口湾に放出させる電動式の大樋門。幅1.5m、高さ2.25mの樋門が7門設置されている。左奥は、120馬力のエンジンがついたポンプが3台ある第1排水機場。

⑭新開作三神社

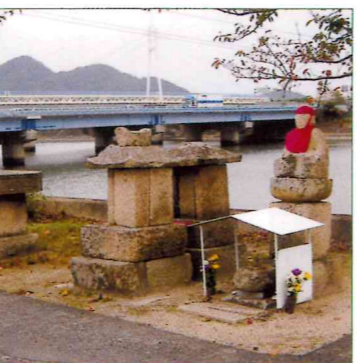
安永3年(1774)に新開作の鎮守のため創建された。祭神は綿津見神、三女神、倉稲魂神。大正15年に新開作西集落で祭られていた天満宮が同境内に合祀された。7月に虫祈禱と管弦祭が、10月に大祭が行われている。

⑮火の山

名田島の東にそびえる火の山は、山頂に狼煙場があったといわれている。標高303.6m。外敵の襲来を都に知らせるための山で、今もその名がある。ふもとには華光寺という寺があり、ここが登山口となっている。

⑯向山三神社

向山に鎮座している神社で祭神は応神天皇、三女神、綿津見神の三座で、三神社といわれている。元禄二年(1689)この地の開作の鎮守神としたのがはじめである。今の建物は幕末に建立されたものである。





名田島の名所・旧跡一覧

番号	名称	番号	名称
①	大道寺	⑮	新開作三神社
②	田中響雲彫刻作品「清浄観音」	⑯	大通門と第1排水機場
③	櫻井實平の墓	⑰	南蛮樋
④	六神社	⑱	昭和神社
⑤	手水川	⑲	集落排水処理場
⑥	森島雪島先生の碑	⑳	華光寺(80番札所)
⑦	皇后岩	㉑	秋本利介功績碑
⑧	六神社御旅所	㉒	天満宮遙拝所
⑨	頌徳碑	㉓	第2排水機場
⑩	岩屋山地蔵院	㉔	集落排水中継ポンプ場
⑪	霊光院の五重小塔	㉕	水害受難の碑
⑫	佐分利邸	㉖	岩屋山の火の山
⑬	向山三神社	㉗	山口南総合センター
⑭	火の山		

この地図は、山口市長の承認を得て、同市発行の山口市都市計画図を複製したものです。
(承認番号 平成29年2月13日 都第310号)